

やさしい旅ヘルプ

篠塚 恭一

1998年の長野冬季五輪は日の丸飛行隊がライシビルで大ジャンプを見せ国民を勇気づけた。続いて長野パラリンピック大会も開かれた。

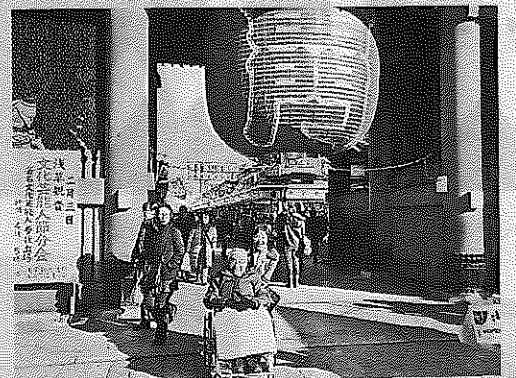
私たちは地元団体に協力を仰ぎ、会場周辺のバリアフリー環境をチェックしようと視察に入った。競技場はもちろん、周辺の鉄道、道路、ホテルにも伺い、大会までの整備計画などを教えてもらった。国際空港からの動線を確認し、観光施設なども対象にした。

長野では国宝の善光寺にいち早く車いすスロープが設置された。無機質な設備では興ざめたが、本堂と一体化して全く違和感がなかった。これができるなら大丈夫と感じたことを覚えている。

なかなか整備の進まないバリアフリー環境も、ビッグイベントがあると一気に整う。経済的に採算が合うなら五輪も万博も歓迎だ。

現在では出雲大社や高千穂、伊勢神宮なども車いすで容易に行ける。四国の金毘羅さんには以前から、785段を歩いて上げてくれる石段駕

イベントで進む観光地の改善



東京・浅草もバリアフリー化に熱心だ

籠がある。ちよつと値が張るが、足の弱い人が風情も楽しめるいいサービスだ。

寺社では墓参りも忘れてはならない生活文化で、そうした暮らしの伝承を体が不自由になっても行えるようサポートする仕組みが必要だ。

大震災で被災した東北だが、バリアフリーに熱心な観光地も多い。先日、仮設住宅に避難している方々を福島県いわき市のスハリソートハウアイアンズに案内した。元気に自立生活している高齢者だったが、利用する、しないにかかわらず、配慮のある設備や表示を見れば安心できる。

今月、東京スカイツリーが開業した。隅田川から見るツリーは格別で、屋形船や人力車との組み合わせも楽しい。モダンなデザインのリパークルーズもあり、浅草近辺は車いすを利用する人にも親切だ。

そうした社会資源を活用して、介護が必要になっても外出や旅を諦めずに楽しんでほしい。今年にはロンドンでオリンピックとパラリンピックが開催される。日本からもトラベルヘルパーがアシストするが、開催後の整備が進んだ町を訪ねるのは楽しみだ。

(日本トラベルヘルパー協会理事長)

うまく利用して外出を楽しもう